

VLFC

Very Low Frequency Control Element



低域はどこまで行けるのか？

極端な低域といえほどのくらいでしょうか。13~30 Hz—これがMeyer Soundスピーカーとして到達した最低域です。VLFCが人の聴覚の閾値を超え、観客はかつて聞いたことのないサウンドを体験します。

VLFCのデュアル共振低周波の18インチ・コーンドライバが、観客が息を呑むような震音波を作り出します。スタジアム、映画館、テーマパークなど、最大に強力な音響が必要な場所にVLFCを追加してみてください。

VLFCは、コンプリメンタリーパワーMOSFET出力段を備えた2チャンネルのオーディオクラスAB/Hアンプによって、極端な操作レベルにおいても、歪を最小限に抑え、リニアリティを保ったままで高い連続ピークパワーを実現します。

可聴下のインパクトをシステムに加えるのは簡単です：VLFCは、Meyer Soundの1100-LFCや他のサブウーファーと組み合わせ、20Hz以下のローエンドを拡張するように最適化されています。

多彩なリギングオプションにより、VLFCをグラウンドスタック、フライング、またはエンドファイアのカーディオイドアレイで使用するように設定できます。Meyer SoundのRMSリモートモニタリングシステムを使用して、システムの状態を監視できます。

VLFCはMTG-1100トップグリッドからフライングできます。トップグリッドは、5：1の安全率で最大14台のアレイをサポートします。オプションのキャストフレームは、最大3台までスタックを固定します。

VLFCは、頑丈な多層硬材キャビネット、スチールグリル、防滴オプションなど、現場でテスト済みの機能を備え、どんな要望にも応えます。

〈VLFC 超低域コントロールエレメント 仕様〉

周波数特性 : 13 - 30Hz ±4dB

ユニット : 低域 18インチ コードライバー X 2

信号コネクター : XLR 3ピンまたは5ピン 入力メス ループ出力オス

アンプ形式 : 2チャンネル コンプリメンタリーパワーMOSFET 出力段 (オーディオクラス AB/H)

寸法・重量 : W1397 mm x H521 mm x D533 mm 135,2 kg / 150,7 kg(サイドリグ金具付)

株式会社アートウィズ <http://artwiz.jp>



東京：〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 511 TEL：03-3202-2330 FAX：03-3202-2331

山梨：〒409-3845 山梨県中央市流通団地 3-3-4 TEL：055-274-4004 FAX：055-274-4005

※「株式会社エイ・ティー・エル」は2017年5月3日より「株式会社アートウィズ」へ社名変更致しました。

Meyer Sound新製品 VLFCがもたらす可聴下サウンドのインパクト

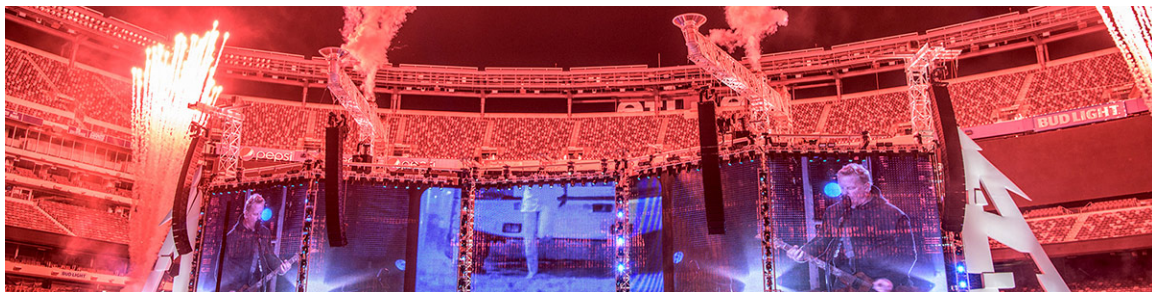


Photo by Emmanuel Lubezki

Meyer Sound は、画期的なセルフパワースピーカーシステム、VLFC 超低域コントロールエレメントを発表しました。VLFC は、人間の聴力の限界以下の周波数において非常に高出力を実現するよう特別に設計されました。すべてのパワーを可聴限界までの橋渡しとなる 30 Hz から 14 Hz までの 1 オクターブに集中させ、耳で感知される深みのある低域音に加え、体を通して感知された空気圧変動を圧縮波として再現することにより、大規模 SR システムの音響的なインパクトを強化します。

VLFC 独特の感情に及ぼす効果としては、本能的に感じとれる圧迫波を生成するような自然現象に対する、人類の進化的な反応を利用しています。例としては、近くに落ちた雷や、大きな滝、嵐の波、地すべりと雪崩、地震などが挙げられます。そのような刺激に対する反応は、軍人など爆発を近くで経験した人々では、さらに高くなります。

「この現象はあまり研究されていませんが、わずかながらの書物や我々の実験的な証拠から、これらの可聴下周波数が不安感情を作り出し、アドレナリンを放出し、心拍数を増加させることは明らかです」と Meyer Sound CEO の John Meyer は言います。「VLFC の初期バージョンの開発は、NASA が振動試験用に行われたのですが、映画館やコンサートの用途に使用するため開発を継続することに決めました。Meyer 本社にあるピアノ劇場で、二重盲検試験を幅広く行いました。」



耳で聞こえるというより、腹の底で感じられるリアルな爆発の体験を作り出すための特殊効果として VLFC を使用しています。実際に空気が大きく動くのが、感じられるのです。

—Metallica FOHエンジニア、“Big Mick” Hughes